

2011 年度 小委員会活動成果報告

(2012 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	民家小委員会		主 査 名：土本 俊和 就任年月：2011 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会		委員長名：伊藤 毅 主 査 名：
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	①民家の歴史的な成立過程と現況を実証的かつ体系的に捕捉していくために、文献ならびにフィールドの調査を実施していく。②調査で得られた知見を、その都度専門家の立場から検証したうえで、組織的に漸次たくわえていく。③以上の作業をふまえ、建築、集落、都市の未来を民家の観点から模索していく。④有意義な知見をテーマに即して整理したうえで、ひろく社会に還元していく。⑤民家研究に関する人的ネットワークをひろげていく。		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有		
	土本俊和 (信州大学)、大場修 (京都府立大学)、大野敏 (横浜国立大学)、角幸博 (北海道大学)、黒坂貴裕 (奈良文化財研究所)、高橋恒夫 (東北工業大学)、西山和宏 (文化庁)、平山育男 (長岡造形大学)、福井宇洋 (福井大学)、溝口正人 (名古屋市立大学)、三浦要一 (高知県立大学)、御船達雄 (和歌山県文化財センター)、山田由香里 (長崎総合科学大学)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2011 年度予算	210,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	研究懇談会「民家研究の新視点－民家と集落・里山・文化的景観－」 参加者77名 資料：同上
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	民家研究の新視点として民家と集落・里山・文化的景観の構築を目標としていたので、大会の研究懇談会を通じてこの新視点を議論することができたという達成度を高く評価したい。
委員会活動の問題点・課題	民家小委員会は、日本列島全域の民家を守備範囲としているため、新しい知見をとりまとめるのに多大な労力がかかる。民家研究の先学らによる知的遺産を承継しつつ、たゆまぬ努力を続けていくということが本小委員会の課題である。